





**大量86チームが参加**

本社後援

## 小名浜職場野球大会

播磨野球連盟監督會、昭和二ム、い  
き民報社など後援、恒例の小名  
職場野球連盟春季大会は七日か  
毎日曜日こゝ五月二十六日まで  
六十六チームが参加、新日本化  
学小名浜製錬所、東邦亜鉛、日  
製作所の四球場で展開される。

理化 B	小名浜合板	鑄造文所
小名浜海陸運送	營業道送	東京
工機		
△第三部 小名浜商事	東京前商	
店会	小名浜調理士会	小名浜医
曳組合	関影景	東洋建設
産業	金井	三洋鉄工所
三洋鉄工所	水產試驗場	堺筋
		(同原風船社主張) ては争士業
		稚児 30人 募る
		いわき市平吉寺銀杏町五九の善
		井開門氏の繪代は機家多數が參
		列、本堂に落成するが、落成日
		として山門の復元、本堂と客殿間
		の渡り廊下新設事を進めていた
B	久工業所	海上保安部
		丸清
工務店	小名浜興産	
		菩提院落慶式
		時から落慶式大法要を営む。
		落慶式大法要は檀徒信義良根
		井開門氏の繪代は機家多數が參
		列、本堂に落成するが、落成日
		として山門の復元、本堂と客殿間
		の渡り廊下新設事を進めていた
		が、このほど昭和十四日前十一
		時から落慶式大法要を営む。
		落慶式大法要は檀徒信義良根
		井開門氏の繪代は機家多數が參
		列、本堂に落成するが、落成日

【5月生】予定が狂うおそれがあ  
れやすいマイペースを守れ  
【12月生】思いのほかチャンスが  
多い積極的に出て咸成ある  
金はどのくらい一億円だけ  
ばならない◆「それがたまに  
いいじみの出来事だ」とい  
う声がまじてきただが世に  
中うまくできている。その点  
があればめられるのだ。  
いつも、いまはやりの鉛筆  
の特徴などをユニークに活用  
されそれがジャズの歴史、移動な  
どを駆けたり、演奏者の生き立  
人間三十人、先着順締め切りで衣  
類など参加料は二千円。  
愈の稚児行列がある。稚児行列は  
【6月生】周囲の音楽を聴かれて、くわいわすれな音楽をかす  
る

の址は、現在、あとかたもない。山城ではない、平地にのみ、「山城ではない、平地にのみ」、岳を青負つてゐるわけだから、【平山城】とするべきであつて、長野氏が築城を意図していくには、城の南端に突出した丘の上に立つて、方から南方にかけて、露留・露泥・高浜・東明屋・原中など、たく

中一 弥画  
北面に櫻谷山に背負つた鞍輪城 最後の戦陣 (九) どううなづけののだ。  
櫻谷山の山腰の斜面や峰上 用して聚ひて鞍輪城も、

# 劍の天地

## あすの運勢

# 劍の天地

料理を  
います

い。職業は自由業、会社員、公務員などいろいろ。方針として、若者だけのジャズという考え方打破され、往年のジャズアーティストはもわるん年配でも気軽に楽しめるようなん方向へ持っていくといつていふ。将来は、本格的なジャズアーティストを招き、演奏会を開きたいと夢は大きい。

もう一つは、同市小名浜字蛭川南四九〇一、櫻商店「ドリップ」・木田健さん(『経営』が事務局)、木田さんのが会長となっている「ドリップ音楽爱好者会」。ドリップ癡迷全じこものがエスカレーントして今年1月創立したもので、ディスク・ジョッキーなどを会員としている次第。

【**CO-OPカラブ**】著者のドリップカラブニア 家具ではスプリングカラーダイナルフェアを6日ま

二、セール ト梅香町・谷川穀店では4日まで入選会おめでとうセール。

三、聚樂館前 売り券発売 平駿前聚樂館で『ペーパー・マーン』『ジーザス・クリストスーパースター』の前売り券発売中。

四、河内屋商店 内蔵御台境町新町前休業 小名浜字横町に小新商店では、社員懇親旅行のために6月7日の日間臨時休業。

五、『美代』 小名浜字横町に小新商店 演劇店『美代』が

六、九、三三九万円。二〇年後には九、三三九万円。わい少しがんばつて、毎年二〇%の上積みをするといふと、二〇年後には一億四、三三三万円――◆複数を開設して、年一〇以上の好利回りが期待でき、これまでの実験から比較的安全なものだが、一億四、三三三万円の最短距離を確実に走れるランナーなのだから。以上はある雑誌会社のPRである。話としてはよくわかるのだが、行は難し。その頃金のために結局、全く毎月十枚ずつ買ひ込んでは、一枚くらい当てる悦に入つている次第。

の下は、ふま、ひらむといた田地になつたが、むかしは泥沼であり、これがまた等輪城の一の防護になつてゐたのだ。

城の本丸の址へのまづ行くと、北に標高山、東に赤城山がある。むじか、平坦な感じがするが、かうして、この城の大變なものがたつてゐる。

こゝの段丘の一つについで、曲輪(くわいね)や櫓(やぐら)が設立された。武田信玄はすこしこゝで、長野道が、むかしは藪であったことを考へると、武田信玄があれほど攻撃されたわけ、熱念を燃やして、何度も攻めつけたにもかからず、長野政が在世中は、ついに、この城を落としたが、なぜか

『上州第一の堅城』とよびて、わかつてゐることわざる。だが、義政(よしのぶ)の、これだけの大変な城のスケールを以前のよつた、もしかしたら、必ず兵力が減じてしまつた。いかに城や櫓があったとて、これまである兵力がなきとは、『無じし固櫻』なのである。

さうの武将や築城を味方に引き入れることから、築輪攻めを、『やの直した……』といつてよい。その中で、もといの大変な攻撃が、国峰の小幡信貴の内説(ないわゆる)が、信貴が信玄の援助によつて、国峰を奪い返したことは、長野の武将に強烈な衝

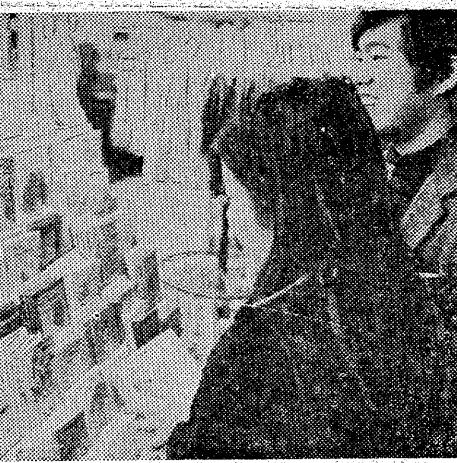
ミナト喫茶店中心	
ヤングも昔の	江名浜店
参加チームは次の通り。	三浦二友 佐藤博 江尻茂 渡辺
△第一部 日星製作所 A 日本化成	行夫 鈴木捷治 丹野季 大樹博
△第二部 東邦亜鉛 A 小名浜製	岩井源之 岩部行男 片寄弘文
△第三部 日素工業	会員 里見可中 増田勝巳 近藤
△第四部 丸運配材部	山本馨 絹音平馬上美 吉田文
△第五部 坂青婦部	夫 記録川野村知甲 企画・企画 金田
△第六部 金井商店会	福平 会計 西村光由 吉田進
△第七部 丸三商工所	▼審判員 勝利 森 小野雅久
△第八部 丸浜運輸	▼審判員 勝利 森 小野雅久
△第九部 東邦亜鉛 B	三浦二友 佐藤博 江尻茂 渡辺
△第十部 東邦亜鉛 C	行夫 鈴木捷治 丹野季 大樹博
△第十一部 岩井源之	岩井源之 岩部行男 片寄弘文
△第十二部 会員 里見可中	参加チームは次の通り。
△第十三部 増田勝巳	△第一部 日星製作所 A 日本化成
△第十四部 金井商店会	△第二部 東邦亜鉛 A 小名浜製
△第十五部 丸三商工所	△第三部 日素工業
△第十六部 丸浜運輸	△第四部 丸運配材部
△第十七部 東邦亜鉛 B	△第五部 坂青婦部
△第十八部 東邦亜鉛 C	△第六部 金井商店会
△第十九部 岩井源之	△第七部 丸三商工所
△第二十部 会員 里見可中	△第八部 丸浜運輸
△第二十一部 増田勝巳	△第九部 東邦亜鉛 B
△第二十二部 金井商店会	△第十部 東邦亜鉛 C
△第二十三部 丸三商工所	△第十一部 岩井源之
△第二十四部 丸浜運輸	△第十二部 会員 里見可中
△第二十五部 東邦亜鉛 B	△第十三部 増田勝巳
△第二十六部 東邦亜鉛 C	△第十四部 金井商店会
△第二十七部 岩井源之	△第十五部 丸三商工所
△第二十八部 会員 里見可中	△第十六部 丸浜運輸
△第二十九部 増田勝巳	△第十七部 東邦亜鉛 B
△第三十部 金井商店会	△第十八部 東邦亜鉛 C
△第三十一部 丸三商工所	△第十九部 岩井源之
△第三十二部 丸浜運輸	△第二十部 会員 里見可中
△第三十三部 東邦亜鉛 B	△第二十一部 増田勝巳
△第三十四部 東邦亜鉛 C	△第二十二部 金井商店会
△第三十五部 岩井源之	△第二十三部 丸三商工所
△第三十六部 会員 里見可中	△第二十四部 丸浜運輸
△第三十七部 増田勝巳	△第二十五部 東邦亜鉛 B
△第三十八部 金井商店会	△第二十六部 東邦亜鉛 C
△第三十九部 丸三商工所	△第二十七部 岩井源之
△第四十部 丸浜運輸	△第二十八部 会員 里見可中
△第四十一部 東邦亜鉛 B	△第二十九部 増田勝巳
△第四十二部 東邦亜鉛 C	△第三十部 金井商店会
△第四十三部 岩井源之	△第三十一部 丸三商工所
△第四十四部 会員 里見可中	△第三十二部 丸浜運輸
△第四十五部 増田勝巳	△第三十三部 東邦亜鉛 B
△第四十六部 金井商店会	△第三十四部 東邦亜鉛 C
△第四十七部 丸三商工所	△第三十五部 岩井源之
△第四十八部 丸浜運輸	△第三十六部 会員 里見可中
△第四十九部 東邦亜鉛 B	△第三十七部 増田勝巳
△第五十部 東邦亜鉛 C	△第三十八部 金井商店会
△第五十一部 岩井源之	△第三十九部 丸三商工所
△第五十二部 会員 里見可中	△第四十部 丸浜運輸
△第五十三部 増田勝巳	△第五十四部 東邦亜鉛 B
△第五十四部 金井商店会	△第五十五部 東邦亜鉛 C
△第五十五部 丸三商工所	△第五十六部 岩井源之
△第五十六部 丸浜運輸	△第五十七部 会員 里見可中
△第五十七部 東邦亜鉛 B	△第五十八部 増田勝巳
△第五十八部 東邦亜鉛 C	△第五十九部 金井商店会
△第五十九部 岩井源之	△第六十部 丸三商工所
△第六十部 会員 里見可中	△第六十一部 丸浜運輸
△第六十一部 増田勝巳	△第六十二部 東邦亜鉛 B
△第六十二部 金井商店会	△第六十三部 東邦亜鉛 C
△第六十三部 丸三商工所	△第六十四部 岩井源之
△第六十四部 丸浜運輸	△第六十五部 会員 里見可中
△第六十五部 東邦亜鉛 B	△第六十六部 増田勝巳
△第六十六部 東邦亜鉛 C	△第六十七部 金井商店会
△第六十七部 岩井源之	△第六十八部 丸三商工所
△第六十八部 会員 里見可中	△第六十九部 丸浜運輸
△第六十九部 増田勝巳	△第七十部 東邦亜鉛 B
△第七十部 金井商店会	△第七十一部 東邦亜鉛 C
△第七十一部 丸三商工所	△第七十二部 岩井源之
△第七十二部 丸浜運輸	△第七十三部 会員 里見可中
△第七十三部 東邦亜鉛 B	△第七十四部 増田勝巳
△第七十四部 東邦亜鉛 C	△第七十五部 金井商店会
△第七十五部 岩井源之	△第七十六部 丸三商工所
△第七十六部 会員 里見可中	△第七十七部 丸浜運輸
△第七十七部 増田勝巳	△第七十八部 東邦亜鉛 B
△第七十八部 金井商店会	△第七十九部 東邦亜鉛 C
△第七十九部 丸三商工所	△第八十部 岩井源之
△第八十部 丸浜運輸	△第八十一部 会員 里見可中
△第八十一部 東邦亜鉛 B	△第八十二部 増田勝巳
△第八十二部 東邦亜鉛 C	△第八十三部 金井商店会
△第八十三部 岩井源之	△第八十四部 丸三商工所
△第八十四部 会員 里見可中	△第八十五部 丸浜運輸
△第八十五部 増田勝巳	△第八十六部 東邦亜鉛 B
△第八十六部 金井商店会	△第八十七部 東邦亜鉛 C
△第八十七部 丸三商工所	△第八十八部 岩井源之
△第八十八部 丸浜運輸	△第八十九部 会員 里見可中
△第八十九部 東邦亜鉛 B	△第九十部 増田勝巳
△第九十部 東邦亜鉛 C	△第九十一部 金井商店会
△第九十一部 岩井源之	△第九十二部 丸三商工所
△第九十二部 会員 里見可中	△第九十三部 丸浜運輸
△第九十三部 増田勝巳	△第九十四部 東邦亜鉛 B
△第九十四部 金井商店会	△第九十五部 東邦亜鉛 C
△第九十五部 丸三商工所	△第九十六部 岩井源之
△第九十六部 丸浜運輸	△第九十七部 会員 里見可中
△第九十七部 東邦亜鉛 B	△第九十八部 増田勝巳
△第九十八部 東邦亜鉛 C	△第九十九部 金井商店会
△第九十九部 岩井源之	△第一百部 丸三商工所
△第一百部 会員 里見可中	△第一百一部 丸浜運輸
△第一百一部 増田勝巳	△第一百二部 東邦亜鉛 B
△第一百二部 金井商店会	△第一百三部 東邦亜鉛 C
△第一百三部 丸三商工所	△第一百四部 岩井源之
△第一百四部 丸浜運輸	△第一百五部 会員 里見可中
△第一百五部 東邦亜鉛 B	△第一百六部 増田勝巳
△第一百六部 東邦亜鉛 C	△第一百七部 金井商店会
△第一百七部 岩井源之	△第一百八部 丸三商工所
△第一百八部 会員 里見可中	△第一百九部 丸浜運輸
△第一百九部 増田勝巳	△第一百十部 東邦亜鉛 B
△第一百十部 金井商店会	△第一百十一部 東邦亜鉛 C
△第一百十一部 丸三商工所	△第一百十二部 岩井源之
△第一百十二部 丸浜運輸	△第一百十三部 会員 里見可中
△第一百十三部 東邦亜鉛 B	△第一百十四部 増田勝巳
△第一百十四部 東邦亜鉛 C	△第一百十五部 金井商店会
△第一百十五部 岩井源之	△第一百十六部 丸三商工所
△第一百十六部 会員 里見可中	△第一百十七部 丸浜運輸
△第一百十七部 増田勝巳	△第一百十八部 東邦亜鉛 B
△第一百十八部 金井商店会	△第一百十九部 東邦亜鉛 C
△第一百十九部 丸三商工所	△第一百二十部 岩井源之
△第一百二十部 丸浜運輸	△第一百二十一部 会員 里見可中
△第一百二十一部 東邦亜鉛 B	△第一百二十二部 増田勝巳
△第一百二十二部 東邦亜鉛 C	△第一百二十三部 金井商店会
△第一百二十三部 岩井源之	△第一百二十四部 丸三商工所
△第一百二十四部 会員 里見可中	△第一百二十五部 丸浜運輸
△第一百二十五部 増田勝巳	△第一百二十六部 東邦亜鉛 B
△第一百二十六部 金井商店会	△第一百二十七部 東邦亜鉛 C
△第一百二十七部 丸三商工所	△第一百二十八部 岩井源之
△第一百二十八部 丸浜運輸	△第一百二十九部 会員 里見可中
△第一百二十九部 東邦亜鉛 B	△第一百三十部 増田勝巳
△第一百三十部 東邦亜鉛 C	△第一百三十一部 金井商店会
△第一百三十一部 岩井源之	△第一百三十二部 丸三商工所
△第一百三十二部 会員 里見可中	△第一百三十三部 丸浜運輸
△第一百三十三部 増田勝巳	△第一百三十四部 東邦亜鉛 B
△第一百三十四部 金井商店会	△第一百三十五部 東邦亜鉛 C
△第一百三十五部 丸三商工所	△第一百三十六部 岩井源之
△第一百三十六部 丸浜運輸	△第一百三十七部 会員 里見可中
△第一百三十七部 東邦亜鉛 B	△第一百三十八部 増田勝巳
△第一百三十八部 東邦亜鉛 C	△第一百三十九部 金井商店会
△第一百三十九部 岩井源之	△第一百四十部 丸三商工所
△第一百四十部 会員 里見可中	△第一百四十一部 丸浜運輸
△第一百四十一部 増田勝巳	△第一百四十二部 東邦亜鉛 B
△第一百四十二部 金井商店会	△第一百四十三部 東邦亜鉛 C
△第一百四十三部 丸三商工所	△第一百四十四部 岩井源之
△第一百四十四部 丸浜運輸	△第一百四十五部 会員 里見可中
△第一百四十五部 東邦亜鉛 B	△第一百四十六部 増田勝巳
△第一百四十六部 東邦亜鉛 C	△第一百四十七部 金井商店会
△第一百四十七部 岩井源之	△第一百四十八部 丸三商工所
△第一百四十八部 会員 里見可中	△第一百四十九部 丸浜運輸
△第一百四十九部 増田勝巳	△第一百五十部 東邦亜鉛 B
△第一百五十部 金井商店会	△第一百五十一部 東邦亜鉛 C
△第一百五十一部 丸三商工所	△第一百五十ニ部 岩井源之
△第一百五十ニ部 丸浜運輸	△第一百五十ニ部 会員 里見可中
△第一百五十ニ部 増田勝巳	△第一百五十ニ部 増田勝巳

はいはいた。立つたが腰こりいる人は半数のしん。  
現在、会員は約五十人。○しか  
ら四十六の肉屋さんであるが、  
主体は高校生と云うかヤングク  
ラブとも見える。  
専業ば、古いコードを繰め、  
昔走行したフルース調のジャズも  
入れ、だれにでも染まる音楽の  
にしたがと抱負はつまみ。  
よひにだら、人教も増えたしむか  
の「歌をいわゆる」と佐用一曰発  
定、コロサートを開くまでよひだら  
た。  
現在、会員は五十一人。二十一  
四十五歳までの会員世代は幅広  
い青年達も

——「フリーランス」——「フリーランス平店・  
運動靴大堂」 小名張店・植田  
店では毎日並で運動靴大堂。  
平慶齋で、くみあいマーケッ  
トの集、  
いる人は半数のしん。  
現在、会員は約五十人。○しか  
ら四十六の肉屋さんであるが、  
主体は高校生と云うかヤングク  
ラブとも見える。  
専業ば、古いコードを繰め、  
昔走行したフルース調のジャズも  
入れ、だれにでも染まる音楽の  
にしたがと抱負はつまみ。  
よひにだら、人教も増えたしむか  
の「歌をいわゆる」と佐用一曰発  
定、コロサートを開くまでよひだら  
た。  
現在、会員は五十一人。二十一  
四十五歳までの会員世代は幅広  
い青年達も

# 家庭婦人

## グリーティング・カード



どれにしようかな

「グリーティング・カード」が若い女性の間で人気を集めています。耳慣れないことですが、誕生日・入学・卒業のお祝いからおもみまで「心のぬくもりを贈る一枚のカード」がグリーティング・カードです。

「グリーティング・カード」が使用されているところです。

わが国でも、十年前からクリスマス・カードが若者の間で定着してきましたが、アメリカにくらべて、まだまだ较少のものであります。アメリカへひどい当たり年四十枚のグリーティング・カードが使われているといいます。

年賀、バレンタイン、署中見舞、季節のあいだを贈るシースナル・カード、誕生日、結婚、出産のお祝い、移転の通知など、一年中いつでも使われています。

カードの種類は、社で平均二百五十種以上はあるものの、日本にある三社から七百五十種以上のカードが出ています。さらに、今年から米国カード三大会社のひとつギブソン社と提携したOBS・ソニー社では、現在生産しているカードは三百四十種だが、今年中に五百五十種に増やさる予定とのことです。

カードはひとつひとつの絵柄が違うので、登場している主人公が、それぞれのキャラクターをもつていて、たとえば、「モベット」や「!!!!」、それと「チャーハート」といったもので、自分の趣味で選ぶだけではなく、贈られる

人がわざわざ話しかけてくることもあります。それに、カードは一枚平均五百円で手堅く、可能

ですが、夫婦げんかでお互いがゆき合はねばならないとき、冷静になつた

ところで、グリーティング・カ

ードを使って話しかければ、コミュニケーションはスムーズにできるわ

けです。それに、カードは一枚平

均五百円で手堅く、可能

ですが、夫婦げんかでお互いがゆき合はねばならないとき、冷静になつた

ところで、グリーティング・カ

ードを使って話しかければ、コミュニケーションはスムーズにできるわ

けです。それに、カードは一枚平

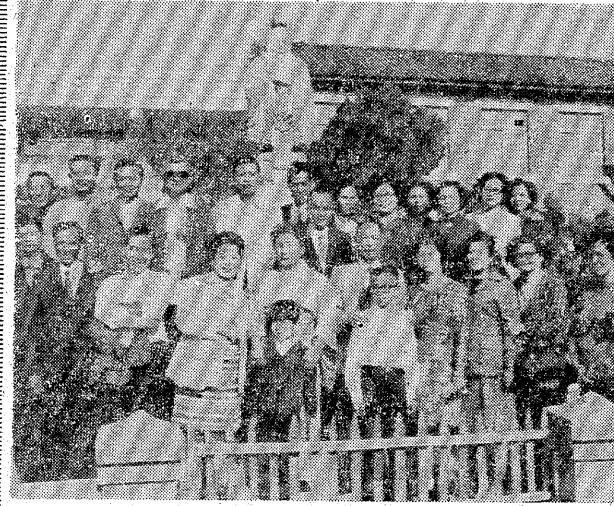




「台北飛行場」で出発  
の時刻も近づいてきたので  
見送りに集まってくれ  
た教子達一同に対し、  
心から厚い接待に感謝

# 師弟愛は国境越えて

★★★★★★★★★★★★



## 60数人がワツと歓迎

### 本氏夫妻 溫かかつた第一の故郷

台湾で、七年間教師としていた老教師がいわき市四倉町において、先月六日から八日まで教え子の招待を受けた三十九年ぶりに台湾の土を踏み、陽明山(草山温泉)の桜やシルバー古木の春を満喫し、教子達に手をひくようにしてつながる教室を見つけて。帰國後は毎日のように舞い込む教子からの長い手紙で記念写真に、顔をほじほじして見るのが日課となつた。

眼に広がる太平洋の青い海原を見ながら、ナシの手入れに余生を送っている橋本長左衛門さんと感謝のねれを述べ、お互いに涙が見えるなくなる別れであった。(あいだれの台湾訪問記より)



### 帰国後も便り続々と

いわき市立小学校・理工科国民小学の教員として出向を命ぜられた四年間の教師生活にビリオドを終り日本へ戻る。前年は昭和十四年、福島県から台湾の台北市郊外の士林学校(記念撮影)にて語かるのは台湾との子供達の事だ。

### 売り上げの一 部を社会還元

スナック山小屋(小蘭敷さん)に入り、ウイスキー、コーラ、つまみなど四千五百円程度を飲み食じた。翌日はなつかしの士林国民学校訪問。校門には「さよなら」と書かれた看板が立つ。午後九時空港着、飛行場には大勢の數十人子弟が迎えてくれた。だまつらひに立たれました。同様に一人一人と握手を交わす。三十周年近い歳月が流れだが、脳

(記より)

「三十年ぶりと題して出逢い台湾

飛行場からやがて歓迎会場へ運

搬送車

で運ばれていた。しかし台湾

はそれと、そこには三十年前は立派な施設があったが、今は四十

五年となり、役場や大字役場

の柱としてつぱに生活している

人々六十数人が待っていた。「先

生お元気ですか」「私をおびき

われてますか」と次々と質問を投げつけられた。

手を求める顔は、再会を喜ぶ微笑

でいっぱいだった。

内閣諭訪神社でボヤ

いわき市立小学校の東北海岸

の鹿島街道を歩いて普通乗用

車を運転、事故現場開拓中の同署員につまつたもの。

この時松本は、やつていつまでも

いながら、「酒は飲んで、同署員につまつたもの。

いながら、「酒は飲んで、同署員につまつ

